

日文佛學期刊總目索引（二）

新編世界佛學名著譯叢

新編世界佛學名著譯叢

第十八冊

日文佛學期刊總目索引（二）



中國書店

新編世界佛學名著譯叢
PDG

本册說明

本書原名爲「佛教學關係雜誌文獻總覽」。一九八七年由日本東京的「國書刊行會」所出版。內容收集日本明治初年到昭和五十六年（一九八一）共計一百多年間的佛學期刊的內容總目。收錄的期刊共有二八八種。由於原書書名不甚適合中文習慣，因此乃由「譯叢」編者改爲今名。

顯然的，這二八八種期刊的內容多少可以反映近百年來日本佛學研究的大致趨勢以及研究成果。因此，將它們的各期目錄綜合於一處發表出來，其學術價值，自是毋庸置疑。同理，「譯叢」將這部總目推介給國內的讀者，其意義也是清楚可見的：主要的意義是，可以使日本近百年來佛學研究成果的縮影，呈現在國人的眼前。

除此之外，對從事佛教研究的讀者而言，我們還要向他們建議幾種使用本書的方法：

(一)初入研究之門的朋友，最常遇到的困擾是不知道要研究什麼，亦即想撰寫論文却找不到方向。如果是這種情形，不妨稍加翻閱本書，讀一讀日本學者的論文題目，相信會得到若干啓發。

(二)已經確定研究方向的人，也可以從本書得到制定題目的啓示。已經訂好題目的人，也可以查閱本書，看看所訂題目是否已有日本學者寫過。如果是，不妨想辦法取得該論文

的全文以資參考。

(三)要從事佛教研究，除了功力、方法、輔助學科等條件必須具備之外，對於國際間的佛教研究資訊也不可忽略。我們的佛學研究環境不佳，大學沒有佛教科系，佛教界迄今還未能興辦大學，因此，對國際上的佛學研究資訊，我們一向陌生。針對這項缺陷，本書稍（當然不是全部）可以彌補。

本書內容與「譯叢」第15冊「當代日本佛學論叢總錄」一書，雖然都是有關日本佛學研究的論文目錄，但是內容與性質都並不相同。兩部書可以互補，並不衝突。

原書為十六開版面，每頁分三欄。由於「譯叢」版面較小，僅廿五開，為使內文不致過小，因此改為每頁二欄。全書分裝四冊，「著者索引」收在第四冊（「譯叢」編號20）卷末。全書的編排以日語字母順序為準，讀者可依音順查索到所需的期刊。

新編世界佛學名著譯叢

日文佛學期刊總目索引（二）

本冊收錄雜誌一覽

佐賀竜谷学会紀要——佐賀竜谷短期大学紀要	一	宗学研究(曹洞宗宗学研究所)	六七
佐賀竜谷短期大学紀要	一	宗学研究(立正大学仏教学会)	六七
三康文化研究所年報	四	宗教と社会	八九
三 藏——国訳一切経和漢撰述部月報	六	宗教学年報	九〇
山家学报(大正大学天台学会)	一〇	宗教学論集	九二
山家学报(天台宗大学山家学会)	一二	宗教教育研究	九六
僧 伽	一六	宗教研究	九七
支那宗教事情——東亜宗教事情	一九	宗教文化	一七九
支那仏教史学	一九	宗史編修所報——宗学院編修部報	一八一
史学論叢——立正史学	二四	宗門史談	一八一
四天王寺女子大学紀要	二六	性 相	一八一
時宗教学年報	二八	性相(法相宗勤学院同窓会会報)——性相	一八一
時衆研究	二八	聖徳太子研究	一八四
宗学院研究紀要	四一	浄土学	一八八
宗学院研究発表要旨——宗学院研究紀要	四三	浄土学紀要——仏教大学学报	一八八
宗学院編修部報	四三	浄土学研究紀要——仏教大学学报	一九五
宗学院論集	四六	浄土宗学研究	一九五
宗学院論集——宗学院論集	四六	眞宗学	二〇三
宗学研究(大谷派本願寺宗学院)	六〇	眞宗学报	二一三

真宗学会会報	二二七
真宗教学研究	二一九
真宗研究(真宗学研究所)	二二〇
真宗研究(真宗連合会)	二二六
真宗研究会紀要	二三七
真宗講話	二四一
真宗論攷	二四四
新更(特別号)	二四五
新更論集	二四八
新 興	二四八
新 天台	二七〇
親鸞教学	二七五
親鸞聖人研究	二八六
親鸞聖人論攷	二九七
人文学論集	二九八
尋 源	三〇一
鈴木學術財団研究年報	三〇五
是 真	三一一
西山学报	三二三
西山教義研究	三二八
西山禅林学报	三三〇

樓 神	三三三
聖語研究	三四八
專修学报	三四九
浅草寺仏教文化講座	三五二
禅の研究	三五九
禅 学	三六〇
禅学研究	三六六
禅研究所紀要	三七八
禅 文 化	三八一
禅文化研究所紀要	四〇五
曹洞宗研究員・研究生研究紀要	四〇九
雜 木 林→ヴァーダ	
大正新編大藏經會員通信	四二一
大正大学学报——大正大学研究紀要	
大正大学研究紀要	四二九
大正大学浄土学研究室大学院研究紀要	四四四
大正大学綜合仏教研究所年報	四四七
大正大学大学院論集	四四九
大学院仏教学研究会誌(驹沢大学)——仏教 学研究會年報	
大学林同窓会会報——竜谷大学論集	

大乘美術	四五二
台門學報	四五二
第二回日本宗教学大会紀要「日本の宗教学」	
↓ 宗教学研究	
高田學報	四五三
高輪學報	四六八
連 磨 潭	四七三
智山學報（興風会文芸部）	五〇七
智山學報（智山勸学会）	五一〇
智山教化研究	五二二
中央學術研究所紀要	五二八

日文字母音順目次

チ	五〇七
タ	四二一
ソ	四〇九
セ	三二一
ス	三〇五
シ	一九
サ	一

【サ】

佐賀竜谷短期大学紀要(さがりゅうこくたん

きだいがくきょう)

佐賀竜谷学会紀要(創刊号——第一九号)

佐賀竜谷短期大学紀要(第二〇号——)

佐賀竜谷短期大学(佐賀市水ヶ江三ノ五ノ一

三)

昭和二八年(創刊号)——発行中

創刊号(昭和二八年九月)

一乗の基盤としての開会思想

佐々木 憲徳

法滅尽経について

撫尾 正信

選択集と教行信証に関する一考察(序論)

森 協一 堀

性靈集より見たる弘法大師の書道

修山 脩一

第二号(昭和二九年九月)

摩訶摩耶経漢訳に関する疑義

撫尾 正信

新撰和歌集論——その偽書説の検討

重松 泰雄

第三号(昭和三〇年一二月)

禪定の研究——経典の表現根拠として——

修山 脩一

第五号(昭和三二年一二月)

阿含經典の表現根拠について

修山 脩一

南朝士大夫の仏教信受について——南齊蕭子良

とその周囲——

撫尾 正信

第六号(昭和三三年一二月)

大智度論における禪定

貞包 哲朗

第七号(昭和三四年一二月)

頭浄土方便化身土文類六末の研究——その序説——

光岡 慈昭

弥陀思想に関する諸説

貞包 哲朗

巻九・一〇合巻号(昭和三七年一二月)



日本文學期刊總目索引(二)

日文佛學期刊總目索引 (二)

釈尊出家の動機について——輪廻転生の問題——

修山 脩 一

唐・五代東亞諸国民の海上発展と仏教

日 野 開三郎

愚禿抄撰述年代と撰述の祖意について

森 脇 一 博

智度論における三三昧について

貞 包 哲 朗

第一一号 (昭和三九年一月)

唐・五代東亞諸国民の海上発展と仏教 (承前・

完)

日 野 開三郎

仏教中に輪廻転生説の存在する理由

修 山 脩 一

第一二号 (昭和四〇年一月)

親鸞聖人廻心の条件

修 山 脩 一

沙弥満誓の歌について——旅人と満誓との関係

志 津 田 藤 四 郎

を中心に——

第一三号 (昭和四一年一月)

仏教における善と悪

貞 包 哲 朗

第一四号 (昭和四三年一月)

認識の対象に関する考察——Tatvasamgraha.

Bahirarthapariksa の和訳研究 (上) ——

太 田 心 海

第一五号 (昭和四三年一月)

後生の一大事ということ

修 山 脩 一

信順の至難と誠疑

徳 永 大 信

第一六号 (昭和四四年一月)

真宗における「疑」の問題——罪福信による仏

智疑惑について——

徳 永 大 信

第一七号 (昭和四五年一月)

宗教的情意からみた「往生浄土」の問題 (二)

修 山 脩 一

明信仏智と眞実報上

徳 永 大 信

認識の対象に関する考察——Tatvasamgraha.

Bahirarthapariksa の和訳研究 (下) ——

太 田 心 海

第一八・一九合巻号 (昭和四八年二月)

△開学二〇周年記念号▽

春日曼荼羅とその信仰について 花山院 観忠

宗教的情慮からみた「往生浄土」の問題 (II)

——「無量寿経」に現われた阿弥陀仏の信仰——

修山 簡一

教行信証と歎異抄との一視点 徳永 大信

「ことば」の対象について 『Ativasamgraha, Sabdarthapariksa』 首見 太田 心海

第二二号 (昭和四九年二月)

名号についての考察——解深密経に拠つて——

隆山 簡一

真仏弟子論 徳永 大信

第三三号 (昭和五二年二月)

仏教における知識論——陳那における「識」の自証論——

谷川 理宣

第二四号 (昭和五三年二月)

仏説阿弥陀経索引 谷川 理宣

第二五号 (昭和五四年二月)

谷川 理宣

A Translation of Pramāṇavārtika I

and the Autocommentary (1)

——verses 52—65——

P. R. Vora · Shinkai Ota

第二六号 (昭和五五年二月)

「妙好人伝」の変質——専末における「妙好人伝」出版の意味—— 土井 順一

A Translation of Pramāṇavārtika I and the Autocommentary (2)

P. R. Vora · Shinkai Ota

「仏説観無量寿経」索引 (I) 谷川 理宣

第二七号 (昭和五六年二月)

衆生論 徳永 大信

DHARMAKĪRTI'S CRITICISM OF SĀM-

KHYA THEORY OF UNIVERSAL——

A Translation of Pramāṇavārtika I and

Svaṃvṛti, Verses 163—180 Shinkai Ota

「仏説観無量寿経」総索引 (II) 谷川 理宣

第二八号 (昭和五七年二月)

真宗に於ける真仮論 徳永 大信

真宗に於ける真仮論

徳永 大信



日文佛學期刊總目索引 (二)



日文佛學期刊總目索引 (二)

翻刻 近世仏教文学資料 (二) — 四編「妙好

入伝」(一) — 土井 順一

A Translation of Pramāṇavṛttika I

and Svartti (3) P. R. Vora · Shinkai Ota

Nembutsu in Shinran and His Teachers:

A Comparison (1) 重藤 信英

三康文化研究所年報 (さんこうふんかけんき

ょうしょねんぼう)

三康文化研究所 (東京都港区芝公園四一七

四)

昭和四一年 (創刊号) — 発行中

創刊号 (昭和四一年一二月)

シナ仏教における道安

塚本 善隆

マドヴァの哲学 — マーダヴァ「全哲学綱要」

第五章翻訳 —

中村 元

Sagathavagga の偈頌の構成 — 資料編一 —

石上 善応

第二号 (昭和四三年九月)

中国の宗教の神話学的 — 研究 — 迷路と洞窟の

テーマー — マックス・カルタンマルク

ヴェーダの權威

原始仏教經典にあらわれたヴェーダの傳承と

学問 中村 元

プラーナ文獻に見えるヴェーダ — 特にヴィ

シュヌ・プラーナの記述を通じて —

松岡 誠 達

初期仏教における読誦の意味と読誦經典につい

て 石上 善 応

第三号 (昭和四五年一二月)

ジャイナ教概説 — Sarvadarśanasamgraha

第三章翻訳 — 中村 元

相應部有偈頌に現われた仏伝について — とく

に重要事件に限定して — 石上 善 応

源誓存心について

玉山 成 元

十往生経の引文をめぐって

佐藤 成 順

十往生阿弥陀仏国経における十往生法の成立に

ついて 大南 竜 昇

対照 十往生阿弥陀仏国経・山海經卷経

第四・五号 (昭和四八年三月)

バリバージャカについて

石上善徳

隆堯の著書と書写本について

玉山成元

中国における三教一致・諸宗融合の思想——その

佐藤成順

の基盤と形成——

小泉仰

福沢諭吉の宗教観——付文献——

蜂島旭雄

中江兆民の思想と宗教

伊藤友信

井上哲次郎の宗教観

中里良男

杉浦重剛の「理学宗」について

仏教史研究会

増上寺文書

第六・七号 (昭和五〇年三月)

シヴァ教の説 水銀派の説 ヴァイシエーシカ

説——マードガヴァ「全哲学綱要」第七、第九、

第一〇章の翻訳——

中村元

法然伝の疑問について

玉山成元

慈恩大師の教体説——その基盤と形成——

佐藤成順

第八号 (昭和五一年一月)

仏教概説——Sarvadarśanasamgraha

第二章翻訳——

中村元

飯野家文書について

玉山成元

吉蔵の四重二諦説——その構造と背景——

佐藤成順

宗教的経験としての視覚——原信を理解するた

山折哲雄

めの試案——

高木きよ子

西行の宗教的希求 (序説)

高木きよ子

第九号 (昭和五二年三月)

シヤンカラ説とナクリーシャ・パーシユバタ説

——Sarvadarśanasamgraha 第一六章、

第六章——

中村元

道生撰妙法蓮花経疏対訳

中国仏教思想研究会

第一〇・一一号 (昭和五四年三月)

ヴァイシエーシカ学派の原典——Vaisesika-

sūtra と Padārthadharmasamgraha——

第二二号 (昭和五五年三月)

中村元

道生撰妙法蓮花経疏対訳

中国仏教思想研究会

法然関係宗論文目録

仏教史研究会





日 文 佛 學 期 刊 總 目 索 引 (二)

三 藏 (さんぞう)

— 国訳一切経和漢撰述部月報 —

大東出版社 (東京都文京区白山一—三七—)

昭和五三年 (二五五) — 昭和五六年 (二〇〇)

六) — 休刊中

• 一一一五四 (国訳一切経印度撰述部月報) は「三藏集」第一編より第四編として同社より発行

一五七 (諸宗部第三卷) (昭和五三年七月)

天台大師と「摩訶止観」 関口 真 大

一五八 (諸宗部第四卷下) (昭和五三年七月)

五時教判論の変遷 関口 真 大

一五九 (諸宗部第四卷上) (昭和五三年八月)

中国における浄土教の受容過程 (一)

藤 堂 恭 俊

一六〇 (諸宗部第五卷) (昭和五三年八月)

中国における浄土教の受容過程 (二)

藤 堂 恭 俊

一六一 (諸宗部第六卷) (昭和五三年九月)

神会語録と本有今無偈論 (一) 平 井 俊 栄

一六二 (諸宗部第七卷) (昭和五三年九月)

神会語録と本有今無偈論 (二) 平 井 俊 栄

一六三 (諸宗部第八卷) (昭和五三年一〇月)

蘭溪遺稿の「大覚禪師語録」を讀んで

古 田 紹 欽

一六四 (諸宗部第九卷) (昭和五三年一〇月)

月庵宗光の禪 古 田 紹 欽

一六五 (諸宗部第十卷) (昭和五三年一一月)

大乘義摩の成立と淨影寺變遷の思想 (一)

吉 津 直 英

一六六 (諸宗部第十一卷) (昭和五三年一一月)

大乘義章の成立と淨影寺慧遠の思想 (二)

吉津 直英

一六七 (諸宗部第十二卷) (昭和五三年二月)

明庵栄西の興廢繼絶 (一) —— 鎌倉仏教に見る

伝統と変革 —— 高木 豊

一六八 (諸宗部第十三卷) (昭和五三年二月)

明庵栄西の興廢繼絶 (二) —— 鎌倉仏教に見る

伝統と変革 —— 高木 豊

一六九 (諸宗部第十四卷) (昭和五四年一月)

十乘觀法成立の推移と背景 (一) 多田 孝正

一七〇 (諸宗部第十五卷) (昭和五四年一月)

十乘觀法成立の推移と背景 (二) 多田 孝正

一七一 (諸宗部第十六卷) (昭和五四年二月)

天台玄旨帰命壇灌頂について (一) 大久保 良順

一七二 (諸宗部第十七卷) (昭和五四年二月)

玄旨帰命壇灌頂について (二) 大久保 良順

一七三 (諸宗部第十八卷) (昭和五四年三月)

教時問答と天台真言二宗同異論 三崎 良周

一七四 (諸宗部第十九卷) (昭和五四年三月)

最澄の学制とその意義 木内 亮次

一七五 (諸宗部第二十卷) (昭和五四年四月)

弘法大師の著作の引用文 (一) 松長 有慶

一七六 (諸宗部第二十一卷) (昭和五四年四月)

弘法大師の著作の引用文 (二) 松長 有慶

一七七 (諸宗部第二十二卷) (昭和五四年五月)

上代日本の浄土教について (一) —— 特に唐書

一七八 (諸宗部第二十三卷) (昭和五四年五月)

上代日本の浄土教について (二) —— 特に唐書

一七九 (諸宗部第二十四卷) (昭和五四年六月)

導大師生存中の我が国の情况 —— 服部 英淳

日蓮の四箇格言とその心 (一) 浅井 円道



日文佛學期刊總目索引 (二)



日 文 佛 學 期 刊 總 目 索 引 (二)

237 下 - 238 中

一八〇〔諸宗部第二十五卷〕 (昭和五四年六月)

日蓮の四調格言とその心 (二) 浅井 円道

一八一〔律疏部第一卷〕 (昭和五四年七月)

無住一円とその戒律観 (一) 石田 瑞麿

一八二〔律疏部第二卷〕 (昭和五四年七月)

無住一円とその戒律観 (二) 石田 瑞麿

一八三〔目錄事彙部第一卷〕 (昭和五四年八月)

売茶翁の思想とその行動 (一) 安居 香山

一八四〔目錄事彙部第二卷〕 (昭和五四年八月)

売茶翁の思想とその行動 (二) 安居 香山

一八五〔史伝部第一卷〕 (昭和五四年九月)

李屏山居士撰文二種 (一) —— 契嵩「輔教編」

および王慶之「礼念弥陀道場懺法」によせた
序—— 野上 俊静

一八六〔史伝部第二卷〕 (昭和五四年九月)

李屏山居士撰文二種 (二) —— 契嵩「輔教編」

および王慶之「礼念弥陀道場懺法」によせた
序—— 野上 俊静

一八七〔史伝部第三卷〕 (昭和五四年一〇月)

中国古写本識語集録稿 (一) 五世紀以前 池田 温

一八八〔史伝部第四卷〕 (昭和五四年一〇月)

中国古写本識語集録稿 (二) 五世紀以前 (続) 池田 温

一八九〔史伝部第五卷〕 (昭和五四年一二月)

道宣の遊方と二・三の著作について (一) 藤 善 真澄

一九〇〔史伝部第六卷〕 (昭和五四年一二月)

道宣の遊方と二・三の著作について (二) 藤 善 真澄

一九一〔史伝部第七卷〕 (昭和五四年一二月)

梁代仏教と武帝 (一) —— 武帝の仏寺建立—— 取 坊 茂 純